

様式第 2 (第12条関係)

加入国際学術団体に関する調査票

1 国際学術団体活動状況 (内規第 11 条 活動報告)

団体名	和	国際数学連合
	英	International Mathematical Union (略称 IMU )
	団体 HP (URL)	http://www.mathunion.org/ (日本学術会議が加盟していることの記載 <input checked="" type="checkbox"/> 有 ・ 無 )
国際学術団体における最近のトピックについて (学術の進歩、当該団体の推進体制の変化、国際機関・政府・社会との関わり方等)	<p>IMU は数学界で最も権威ある国際学術団体であり、世界の 88 か国が参加するなど、高い国際性が特徴である。その中で日本は、主要 10 か国からなる第 5 グループという最高ランクに位置付けられている。森 重文 IMU 総裁 (任期 2015~2018 年) はアジアから初めて選出された総裁である。アジアで行われた研究でフィールズ賞受賞者を出しているのは日本だけであり、第一回目のガウス賞に輝いたのは 伊藤 清 京都大学名誉教授である。この様に、我が国はアジアを名実ともにリードする地位を保っている。</p> <p>IMU は 4 年に 1 度開催される世界最高・最大の数学の会合である 国際数学者会議 (International Congress of Mathematicians, ICM) の主催団体である。参加者は 5000 人、参加国は 120 か国を超える。ICM の主要行事の一つにフィールズ賞、ガウス賞、チャーンメダルの発表と授与式があり、その取材と情報発信のために、世界各国の報道機関がプレスセンターに集結する。フィールズ賞は 40 歳未満の数学者に与えられる世界最高の名誉を持つ賞とされ、しばしば「数学のノーベル賞」と称される。ガウス賞は、数学研究に留まらず、社会にインパクトを与えた業績を挙げた数学者に与えられる賞である。</p> <p>2018 年 7 月 29 日から 30 日まで、ブラジルのサンパウロで総会 (General Assembly) が開催された。次期の総裁、事務総長、理事、各種委員会役員を投票により選考した。次回 2022 年の ICM は投票の結果、ロシアのサンクトペテルブルグに決定した。2018 年 8 月 1 日から 9 日まで、ブラジルのリオデジャネイロで国際数学者会議が開催され、フィールズ賞、ガウス賞、チャーンメダル受賞者が発表され、基調講演、特別講演はじめ、連日多くの企画が行われた。</p>	
政策提言や世界の潮流になりそうな研究テーマ・研究方式・研究助成方式等について	<p>IMU は ICM の運営全般に決定権を持っており、ICM のセッションの選択、フィールズ賞やガウス賞の顕彰、基調講演・パネル招待講演等の最終選考を行っている。これらの講演者に選ばれる事は、過去 4 年間で最も重要な研究成果を挙げた数学者と認められた事を意味する。このように IMU は数学研究の世界的動向に極めて重大な影響を与えている。</p> <p>IMU は特定の研究テーマに対する政策提言を行う機関ではないが、発展途上国の数学・数学教育振興や女性研究者の育成に</p>	

様式第 2 (第12条関係)

	<p>ついて重点的支援を行うための政策提言を行っている。並行して、発展途上国の大学院生のための支援基金 (IMU Breakout Graduate Fellowship Program) が創設され、その公募活動が始まったところである。</p>
<p>日本人役員によるイニシアティブ事項や日本からの参加によって進展や成果があったものについて</p>	<p>森 重文 京都大学高等研究院特別教授は、2015 年～2018 年の間総裁として IMU 理事会をまとめ、次期も理事として執行部に留まっている。今回の ICM では、柏原正樹京都大学数理解析研究所特任教授がチャーンメダルを受賞し、日本の存在感を大きく盛り上げた。</p>
<p>加入していることによる日本学術会議、学会、日本国民への変化やメリットについて</p>	<p>日本は最高レベルの第 5 グループに所属し、総会に 5 名を派遣する権限を有している。日本学術会議から 5 名を派遣し、重要な議事に当たり 5 票の議決権を行使する事により、IMU の意思決定に影響力を持つ事が可能となっている。</p> <p>日本学術会議は国際科学会議 (International Council for Science, ICSU, 現 International Science Council, ISC) に加盟しており、その存在感を維持し今後一層強化していく事は、科学技術立国の在り方として、極めて重要な課題である。ICSU 時代では、執行部 (Executive Board) に、Daya Reddy 総裁、Manuel de Léon 理事、John Ball 理事の 3 名の数学者が入っていた事からも、ISC に於いて数学は重要な地位を占めている事が分かる。日本学術会議が IMU に加入している事によって、数学の立場から、ISC に於ける我が国の存在感、巽 和行 理事の立場を補強する事が出来る。実際、巽先生の理事選挙に於いて、IMU は支持した経緯を持っている。また、吉野 博 日本学術会議会員が事務局長を務めるアジア学術会議 (Science Council of Asia, SCA) の ICSU 加盟に際し、必要条件とされた「3 団体以上の UNION 会員の賛同」に関して IMU は支持文書を ICSU に発出したが、この働き掛けも日本学術会議が IMU に加盟している事によって実現したものである。</p> <p>数学は学術体系全体の中で最も基礎的な学問の一つであり、科学全般の根幹を成している。平成 28 年 1 月 22 日に閣議決定された第 5 期科学技術基本計画の第 2 章 (未来の産業創造と社会変革に向けた新たな価値創出の取組) には、「超スマート社会の構築に必要となる基盤技術を支える横断的な科学技術」として数理科学が挙げられている。平成 28 年 4 月 19 日開催の産業競争力会議に於ける文部科学大臣提出資料「第 4 次産業革命に向けた人材育成総合イニシアチブ」では、「数理・情報が第 4 次産業革命の鍵」と位置付けられている。この様に、数学振興は日本国政府の政策であり、日本学術会議が IMU に加入している事によって、国際舞台における具体的活動を通じて、その政策実現に寄与する事が出来る。</p> <p>国内に於いては、日本数学会、日本応用数学会、日本数学教育学会、日本統計学会をはじめとする数学関連学会の国際</p>

## 様式第 2 (第12条関係)

	ネットワークへの窓口として、国内の数学研究者・数学教員の研究・教育活動に対して国際的な機会を提供している。特に、ICM に於ける各種受賞者（フィールズ賞やガウス賞など）・基調講演者・パネル招待講演者の候補を推薦する国内唯一の窓口となっている。
その他（若手研究者・女性研究者育成法、科学者の倫理に関する当該国際学術団体の基本方針や憲章、資金提供ソースの発掘における画期的な方策等の特記事項など）	IMU における女性数学者のための委員会が Committee for Women in Mathematics として再編された。

### 2 今後の予定について (内規第 11 条 活動報告)

総会、理事会の日本開催の予定について（招致等の予定も含め）	なし
日本人の役員立候補等の予定について	日本から総裁・理事を出しているため、次期の理事候補推薦委員を推薦することは出来ないが、発展途上国支援の委員会をはじめとする各種委員会に役員を推薦することを検討中である。
現在、検討中の日本からの提言や推進するプロジェクト等の動きについて	アジア数学連合設立構想を中国・韓国との3カ国を中心に進めているところである。定款 (Statutes) 及び規約 (By-laws) の最終案について各国と調整中の段階である。

### 3 国際学術団体会議開催状況 (内規第 11 条 活動報告)

総会・理事会・各種委員会等の状況 (過去5年間及び今後予定されているもの)	総会開催状況	国際数学連合総会 IMU・General Assembly 2014年(開催地:慶州) 2018年(開催地:サンパウロ) 2022年(開催地:サンクトペテルブルグ)
	理事会・役員会等開催状況	国際数学連合理事会 Executive Committee 2013年(開催地:ベルリン) 2014年(開催地:プリンストン、慶州) 2015年(開催地:ベルリン) 2016年(開催地:京都) 2017年(開催地:ロンドン) 2018年(開催地:サンパウロ) 2022年(開催地:サンクトペテルブルグ)
	各種委員会開催状況	数学教育国際委員会 ICMI 2013年(開催地:ベルリン) 2014年(開催地:リオデジャネイロ) 2015年(開催地:マカオ) 2016年(開催地:ハンブルグ) 発展途上国委員会 CDC 2013年(開催地:ベルリン)

様式第2 (第12条関係)

		2014年 (開催地:ソウル) 2016年 (開催地:ベルリン) 数学史委員会 ICHM 2013年 (開催地:バース) 2014年はメール会議のみ 2016年はメール会議のみ 電子情報通信委員会 CEIC 2013年 (開催地:バース) 2014年 (開催地:ソウル) 2016年 (開催地:シアトル)			
	研究集会・会議等開催状況	International Congress of Mathematicians 2014年 (開催地:ソウル) 2018年 (開催地:リオデジャネイロ) 2022年 (開催地:サンクトペテルブルグ) International Congress on Mathematical Education 2016年 (開催地:ハンブルグ) 2020年 (開催地:上海)			
上記会議等への日本人の参加・出席状況及び予定	2014年 国際数学連合総会 IMU General Assembly (韓国 慶州) 6人 (うち代表派遣:小澤 徹) 2014年 国際数学者会議 ICM (韓国 ソウル) 199人 (うち代表派遣:小澤 徹) ・基調講演者 1人 ・セッション招待講演者 6人 2018年 国際数学連合総会 IMU General Assembly (ブラジル サンパウロ) 7人 (うち代表派遣:清水扇丈) 2018年 国際数学者会議 ICM (ブラジル リオデジャネイロ) 代表派遣:清水扇丈 ・基調講演 (チャーンメダル受賞記念講演) 者 1人 ・セッション招待講演者 6人				
国際学術団体における日本人の役員等への就任状況 (過去5年)	役職名	役職就任期間	氏名	会員、連携会員の別	
	総裁	2015～2018	森重文	(20期) 会員・ <b>連携</b>	
	副会長	2003～2006	柏原正樹	(22, 23期) 会員・ <b>連携</b>	
	副会長	1999～2002	森重文	(20期) 会員・ <b>連携</b>	
	理事	2019～2022	森重文	(20期) 会員・ <b>連携</b>	
		～		( 期) 会員・連携	
		～		( 期) 会員・連携	
	～		( 期) 会員・連携		
出版物	1 定期的 (年1回) 主な出版物名 IMU Bulletin (4年に1回) Proceedings of the International Congress of Mathematicians 2 不定期 ( 隔月 ) 主な出版物名 IMU Net				

様式第 2 (第12条関係)

活動状況が分かる年次報告等があれば添付又は URL を記載  
 (http://www.mathunion.org/fileadmin/IMU/about/booklet/Dossier\_imu\_v2.pdf)

4 国際学術団体に関する基礎的事項 (内規第 3 条、4 条、5 条)

国内委員会 (内規 4 条第 3 号)	委員会名	数理科学委員会 IMU 分科会
	委員長名	小澤徹
	当期の活動状況	(開催日時 主な審議事項等) 平成 29 年 11 月 30 日 (木) 10 : 00~12 : 00 委員長と幹事の選出、 IMU の次期人事の情報交換 2022 年の ICM 開催地候補についての情報交換 2018 年 IMU 総会への派遣代表者の決定 IMU の affiliate member, associate member 加入に関する投票 特任連携委員の推薦決定  平成 30 年 4 月 27 日 (木) 16 : 00~17 : 00 特任連携委員が承認されたことの報告 IMU・GA, ICM2018 に関する議論 (IMU 国内委員会と日本数学会 の共催で開催される Japan Forum(8/8)の準備状況についての 意見交換と打合せ) International Day of Mathematics についての報告 IMU 国内委員会のウェブサイト立ち上げについての報告 有力賞受賞者の候補者の推薦について
内規第 3 (国際学術団体の要件 関係)	国際学術交流を目的とする非政府的かつ非営利的団体である ① 該当する                      ② 該当しない ※根拠となる定款・規程等の添付又は URL を記載 (http://www.                      )	
	各国の公的学術機関及び学術研究団体等が国際学術団体に国を代表する資格を有して 加入するものが、主たる構成員となっている (主たる構成員が、いわゆる「国家会員」で あるか否か) ① 該当する                      ② 該当しない ※根拠となる資料の添付又は URL を記載 (http://www.                      )	

様式第 2 (第12条関係)

<p>下記の事項 (ア～エ) のいずれか一つに該当するか (該当するものに○印)</p> <p><input checked="" type="radio"/> ア 個々の学術の専門分野における統一かつ世界的な組織を有するもの</p> <p>イ 研究の領域が複数の専門分野にわたるものであって、統一かつ世界的な組織を有するもの</p> <p>ウ 研究の領域が複数の専門分野にわたるものであって、ア又はイの国際学術団体を連合した世界的組織を有するもの</p> <p>エ 構成員のうち、各国代表会員がアジア地域等我が国が関係する地域等に限られるものであって、当該国際学術団体の研究の領域が複数の専門分野にわたるもの</p>	
<p>10 ヲ国を超える各国代表会員が加入している</p> <p><input checked="" type="radio"/> 1. 該当する      2. 該当しない</p>	
<p>加入国数及び 主要な各国代 表会員を 10 記載</p>	<p>( 88 ヲ国)</p>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 各国代表会員名 / 国名</li> <li>• Science Council of Japan (日本学術会議) / 日本</li> <li>• U. S. National Academy of Science / 米国</li> <li>• London Mathematical Society / 英国</li> <li>• Académie des Sciences / フランス</li> <li>• Deutsche Mathematiker - Vereinigung / ドイツ</li> <li>• Istituto Nazionale di Alta Matematica / イタリア</li> <li>• National Research Council of Canada / カナダ</li> <li>• Russian Academy of Sciences / ロシア</li> <li>• Chinese Mathematical Society(事務局は Chinese Academy of Sciences)および The Mathematical Society of the Republic of China / 中国</li> <li>• Israel Academy of Sciences and Humanities / イスラエル</li> </ul>